

平成 19 年 12 月 13 日

東京フォーラム

於：湯島聖堂

## 中斎塾 東京フォーラム 第 8 回講話

では、毎回しております質問をさせて戴きます。

「昨日一日嘘をつかなかった方、どれくらいおられますか」

嘘をつかなかったかどうかというのは、昨日一日の出来事をずっと考えないと答えられませんから、夜寝る時に「今日は一日どうだったかな？」と思って眠ると、聞かれた時にさっと手が挙がります。夜寝る時の生活習慣をお付けになるとよろしいですね。

では、次の質問です。1ヶ月くらいのスパンで考えて下さい。

「目先の利益につられて、手を出したりしませんでしたか？」

もう一つお聞きします。

「昨晚寝る時に、今日は一日良かったな、明日は楽しみだなと思って寝た方、どれくらいおられますか？」

出来れば小学生が、明日は遠足だと思ってワクワクしながら眠るような眠り方であれば、今朝は爽やかに起きられます。夜眠りに付く瞬間が人生を決めると、以前にも申しました。自分がしたいと思っている事を、「出来て良かった」と過去形で思えるようであれば、素晴らしい人生が待っています。カーネギーもマイヤーもそうですが、「大金持ちになる秘訣は、夜眠る時の瞬間にあり」です。どうぞお考えを戴き、実行されると良いでしょう。

陽明学は事上磨練と申しまして、自分の仕事や日常生活の中で自分を磨くことを致します。ですから今、話を聞いて「良いな」と思ったら、その気持ちが高まった時には、必ず行動に出ます。良いなと思った時にすぐに行動に移ると、それは自分の波長に合っている良いことですから、是非生活習慣にされるとよいと思います。

中斎塾フォーラムの目的を申します。

「足るを知る」という言葉を身に染み込ませましょう。そして何か困った時の判断基準を自然と付けるような動きをしていきましょう。

これは、安岡正篤先生や木内信胤先生のもの考え方を取り入れさせて戴き、判断の三原

則<本質・大局・歴史>の観点でものを見ると、困った時にずっと答えが出てきます。

先日発表された、今年の漢字は「偽」でした。困ったものです。やはり日本人がどこか歪んで、そして世界も歪んでいると感じます。

それを正すにはどうしたらよいか。

欲望に任せて動くのではなく、自制心を持った動き方「足るを知る」という考え方を自然と身に付けることによって、日本は変わってくるのではないかと考えている方々が、至る所におられるはずで、そういう方々とも連携しあって、「足るを知る」日本人の良い所をもっと学び直しをしていく。それが日本の国の中で広がっていったら、他の国々にもお伝えしてゆこうではないかと考えています。具体的には温暖化問題について、CO2削減というような活動が良いと思っています。

そのような事を考えて、月に1回、東京と群馬でフォーラムを開いています。

では、本日の「心に残る言葉」をご紹介します。

本日は、安岡正篤先生の「六中観」です。

「忙中・閑有り。苦中・楽有り。死中・活有り。壺中・天有り。意中・人有り。腹中・書有り。」

私は平生<sup>ひそ</sup>窃かにこの観をなして、いかなる場合も決して絶望したり、仕事に負けたり、屈託したり、精神的空虚に陥らないように心がけている。

『百朝集』安岡正篤著 福村出版

『百朝集』は、安岡正篤先生が死ぬか生きるか分からない状況下で話されたものです。話を始めると爆撃があり、すぐに防空壕へ入らなければならない。僅か10分か20分の話の中で、もうこれで最後かと思いながら100回講話が続けられた。「六中観は」その最後に話をされたものです。

安岡先生が解説をした部分が非常に興味深いと思います。安岡先生というと、悩み事などなく何でも快刀乱麻に裁ちきっていったのではないかと、充実した豊かな人生ではなかったかというイメージがありますが、その方が誰にも言わないで、このおまじないを唱えていたというところがいいなと感じます。絶望したり、仕事に負けたり、屈託したりすることがあったのでしょうか。

忙中閑有り・・・なぜ私はこんなに忙しいのだらうと思ったことがありますか。

苦中楽有り・・・なぜ私だけこんなに苦しい思いをしなければならないのか。

死中活有り・・・こんなに苦しいのならば死んでしまいたい。

壺中天有り・・・今年はよくやったなど自分で自分を褒めてやりたいという方はおられますか。自分が嬉しくて楽しくて、時間が経つのを忘れるような趣味・道楽・学問・スポーツをお持ちですか。

意中人有り・・・こういう方の話を聞くと嬉しいとか、はっとする言葉や感動する言葉、ドキッとする指摘を言ってくれる友人・知人がいれば良いですね。自分がそういう人間だと相手に思ってもらえれば、これも又素晴らしい。

腹中書有り・・・人間がこの世に生まれて、何の為に生まれたのだらうと思わない人生は寂しい。書とは、哲学です。人さまから「あなたのおかげで助かった」という話が出来れば素晴らしいし、人さまのお役に立つことが出来れば素晴らしい。

先ほども申しましたように、安岡先生が書かれた部分

**私は平生<sup>ひそ</sup>窃かにこの観をなして、いかなる場合も決して絶望したり、仕事に負けたり、屈託したり、精神的空虚に陥らないように心がけている。**

を読みますと、安岡先生は、絶望したり重圧がかかってプレッシャーに潰されそうになった、或いは家が焼けたり、日本の国が潰れるかもしれない・・・このような状況の時に、六中観を思い出されたのでしょうか。心の中のもやもやした部分も結構あるような印象を受けます。「精神的空虚」とは、奥様が亡くなられた時かとも思います。

最後に「心がけている」とありますが、これは生活習慣です。心がけて、そういう癖を身に付けることが肝心な事だとお考え下さい。

ちなみに「六中観」は、私は悟道会で毎月一回、七年間お話しをさせて戴きました。皆様にお勧めします。七年間とは申しませんが、一年間毎月一回「六中観」を考える、或いは黙読や素読をするという事を生活習慣に加えて戴ければ、多分困った時にお役に立つ言葉だと思います。

もう一つご紹介するのは、木内信胤先生が書かれた『当来の経済学』です。

“当に來るべき経済学”という意味です。この本を木内先生は、

「日本の経済学は病んでいる。経済学が病気になっているのだから、日本の経済がまともにはいはずがない。日本の経済が疲弊し、日本がどんどん駄目になっていく。これを見

過ごすわけにはいかないの、健康で明るい経済学を国民の皆様にお知らせしたい」という動機で書かれました。

面白いことにこの本は、全部普通の会話・常識的な言葉のみで書かれています。学問的な言葉は一切入っていません。意識してそう書かれたのです。それから「ですます調」と「である調」が両方混じっています。先生によると、「である調」は言いつばなしで良い文章、「ですます調」は読者を意識して、相手に伝えたいという時に分かり易くするためと、使い分けています。そして学問的な言葉ではなく、事実のみを並べています。事実の解説をしています。

日本の経済学はこうあるべきだ。こうならねばならない。日本はこれによって良い国になっていくであろう。アメリカは転落の一途であろう・・・という内容が書かれています。

「私の経済論は「時事評論」で構成されてある」という文章があります。

時事評論という事は、事実のみずっと列記しています。過去の事実はどうだった。現在の事実はこうだ。そうすると未来はこうなるだろう・・・いわゆる予測学です。

木内先生が亡くなる前に、

「私の予測は何故的中するのかということをも本にしたいね。学問にしたいね。」と言われていました。結局実現しないまま亡くなりましたけれども、

「経済学者は、これからどうなるということを明確に言うべきだ。」とおっしゃっていました。

また先生は、

「自分の時事評論は時間が経ったら学問としての価値がどんどん増してくる。なぜならば心を持っている人間が行動をする。行動が作り出す現象の中に経済現象がある。その経済現象を説明する時には、歴史的な現象であると考えてしなければならない。」とも言っておられました。

ちなみに景気判断をする時に、経済記者は三つで判断するそうです。一つはタクシーの実車率、二番目は白物家電の売れ行き、三番目が紳士服の売れ行きだそうです。

たまたま昨日群馬経済同友会で、或る方が来年の経済成長率について話をされました。来年の経済成長率は2%と言っておられましたが、実際は医療費関係が押し上げているので、実質経済成長率はマイナスだと判断しておられるそうです。

最後に、干支の話をすこし致します。

来年はどうぞ節約をして下さい。不信・不安・混乱の時代に入ります。なぜならば干支からいうと来年は戊子（つちのえね・ぼし）ですから、今年の「偽」が鼠算的に広がります。来年はデフレとインフレのねじれ現象がどんどん進みます。インフレですから、ものはどんどん値上がりします。給料は横ばいか下がります。インフレとデフレが両方競合するという事もあり得ます。今現在がそうです。＜デフレ脱却は来年度以降・政府がGDPを下方修正＞と日経新聞12月8日付けに出ていました。ここで現れていることは、政府はデフレ脱却を諦めたわけです。ですから来年もデフレは続いています。然るに実感はインフレです。インフレとデフレのねじれが国民を直撃します。

言い方を変えると、不信・不安・混乱の時代が始まる。今年の「偽」が鼠算的に広がります。だったら物理的には節約をすることです。

しかし目標は持っておかねばなりませんから、自分自身の心を明るくする為にはどのようにしたらよいか、よく考えて戴き決めて欲しいと思います。その中で困ったことが出たら、「六中観」を思い出して戴くとよろしいでしょう。

最後に木内先生の言葉で、

「人は綿密な計画を立てぬ方がよい。漠然とこうなればよいなと思う。そういう希望をしっかりと持てば世の中は良くなる。」と言っておられます。そのように考えて一日一日を過ごすと、良い日々が待っていると納得しておりますのでご紹介致しました。

以上で本日の講話を終了と致します。有難うございました。